

協議会開催の背景及び目的、スケジュール案

背景

- 海運へのモーダルシフトについては、「交通政策基本計画」（平成27年2月13日閣議決定）に基づき、平成32年度までにモーダルシフト貨物の海上輸送量を24年度比10%増の367億トンキロとする目標を達成することが必要。
- 海運へのモーダルシフトの一層の推進により内航海運の新たな輸送需要を掘り起こすことは、安定的輸送の確保や物流全体の生産性向上を図る観点からも重要。
- 近年は、トラック運転手不足等に伴う海上輸送利用の増加等の追い風もあり、荷主企業等にモーダルシフトの推進を求めやすい環境にあると考えられる。
- しかしながら、現状では荷主企業等における海上輸送に対する認知・理解が十分でなく、かつ、必要な情報も利用しにくい状況にあるため、荷主企業や物流事業者の一層の理解・協力促進、海運を利用しやすい環境整備を図ることが課題。

目的

- 海運へのモーダルシフトの更なる推進を図るため、RORO船・コンテナ船・フェリー事業者のほか、利用運送事業者、トラック事業者、荷主企業、行政等からなる体制を設置し、連携の強化、具体的な取組の推進を図る。

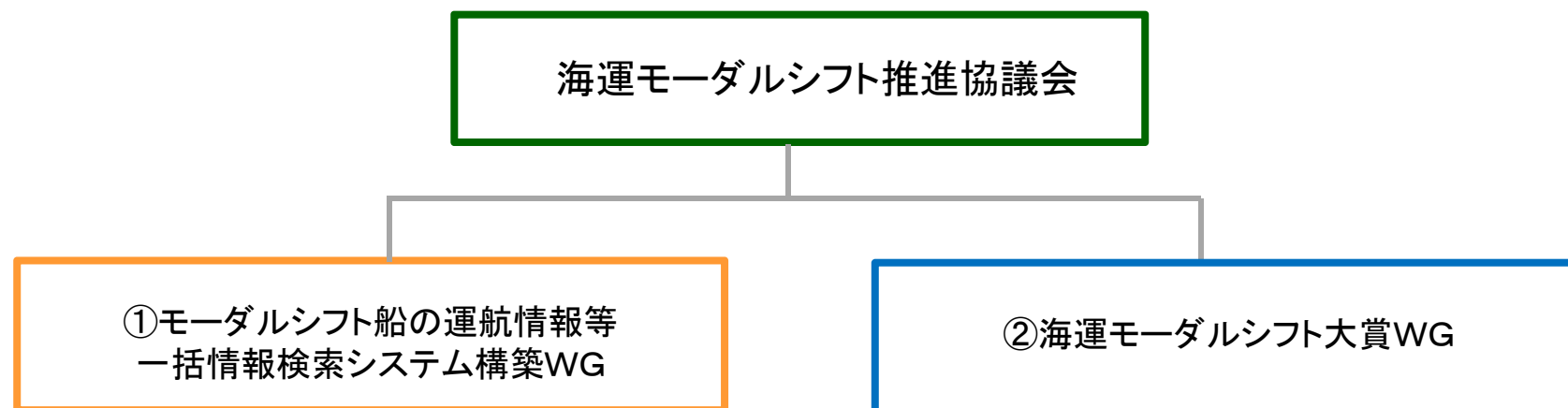
協議会のテーマ

○本協議会設置の背景及び目的を踏まえ、当面、以下を本協議会で取り扱うべき具体的なテーマとして設定するものとする。

- ① モーダルシフト船の運航情報等一括情報検索システムの構築
- ② 海運モーダルシフトに特に貢献する取組や先進的な取組等を行った荷主企業・物流事業者等への新たな表彰制度(「海運モーダルシフト大賞」(仮称))の創設

枠組み

○上記①及び②のテーマをそれぞれ取り扱うWGを協議会の下に設置し、具体的な議論を行うものとする。



平成29年度

平成30年度

協議会

第1回協議会
(11月20日)

- 協議会開催趣旨
- 海運モーダルシフトの現状
- モーダルシフト船の運航情報等一括情報検索システム(素案の提示)
- 海運モーダルシフト大賞制度(素案の提示)

第2回協議会
(5月頃)

- モーダルシフト船の運航情報等一括情報検索システム(WGの結果報告等)
- 海運モーダルシフト大賞制度(実施要領、選定規程案の提示)

第3回協議会
(11月頃)

- モーダルシフト船の運航情報等一括情報検索システム(WGの結果報告等)
- 海運モーダルシフト大賞制度(実施要領、選定規程の決定)

システムWG

第1回WG
(12月中)

- システム案の検討

第2回WG
(1月中)

- システム案の検討
- 実証実験の概要説明

第3回WG
(3月中)

- 実証実験の結果検証
- 次年度に向けた課題の整理

第4回WG
(7月頃)

- システムの改修に基づいた実証実験の概要
- 本格運用に向けた課題の整理・検討

第5回WG
(9月頃)

- 実証実験の中間報告
- 本格運用に向けた課題の整理・検討

第6回WG
(1月頃)

- 実証実験の結果
- 本格運用に向けたシステムの要件とりまとめ

実証実験(2月中)

実証実験(7月～12月)

大賞WG

第1回WG
(6月頃)

- 実施要領、選定規程案の検討

第2回WG
(8月頃)

- 実施要領、選定規程案の検討

第3回WG
(10月頃)

- 実施要領、選定規程案のとりまとめ

募集開始
(11月～)